



### 啐啄同時

校長 倉岡 ナオミ

新しい年を迎えると、何か身も心も清々しく、新しいエネルギーが満ちてくるような気がします。子供たちもきっと、今年はこのことを頑張ろう、こんなことに挑戦してみようと新しい夢や希望をもって、2017年を迎えたことでしょう。子供たちの健やかな成長と幸せを願わずにはいられません。

昨年は、ペア学年でのここの学年活動がスタートし、より相手意識を持った関わりの深い活動を行うことができました。また、地域の方々のお力をいろいろなところでお借りして、子供たちの教育活動を充実させることができました。学校教育への御支援、御協力をいただき、ありがとうございました。笹野台小学校としては、大きな事故や事件もなく、子供たちが健やかな1年を過ごすことができましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、今年は酉年です。実りが充実する年、また、商売の繁盛する年とも言われています。学校としては、今までの活動が充実し発展していく年にしたいと思えます。日々やらなければならないことは、着実に粛々と進めつつ、また新たな1歩を進めていくことを目指します。

この休みに少しゆっくりして、いろいろ考えることができました。テレビや新聞を見ていて思ったのは、努力の大切さです。スポーツや仕事、芸術などで夢を叶えた人たちはやはり多くの努力を積み重ねていました。もちろん才能もあるでしょうが、努力なくして成功はあり得ませんでした。また、そこには、その人を支える良い指導者や家族、周りの方々がいました。そこで浮かんできたのが、「啐啄同時」という言葉です。卵の中で雛は孵化するために殻を内側からつつきます。それと期を同じくして親鳥が外から殻をつつき、孵化を促すのです。それがうまく合わさったときに孵化は成功します。それが教育に例えられることがあります。本人に強い思いがないときに周りがどんなに一生懸命に働きかけても効果はありません。逆に、本人が成長したい、向上したいと思っているときに、十分な支援がなければ、また、期を逸してしまうことにもなります。本人の努力と向上していきたいという思い、そして、その期をとらえた周りの声かけや支援が一致したときに、素晴らしい成長が促されると思えます。子供たちはそれぞれに素晴らしい力を秘めています。それをどう磨き出せるかです。本人の努力と共に、周りの私たちがどう支援できるか、どんな言葉かけができるか、目の前の子供たちとじっくり向き合っていきたいです。

6年生は卒業まであと50日、1～5年生は学年終了まで54日となります。この3か月は本当に早いものです。各学年のまとめをするとともに、新しい学年への準備を進めていきます。教職員一同、気持ち新たに、子供たちのために心を合わせて努力してまいりますので、本年も昨年同様に御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

